

日刊

THE NIKKAN

工業

KOGYO SHIMBUN

新聞

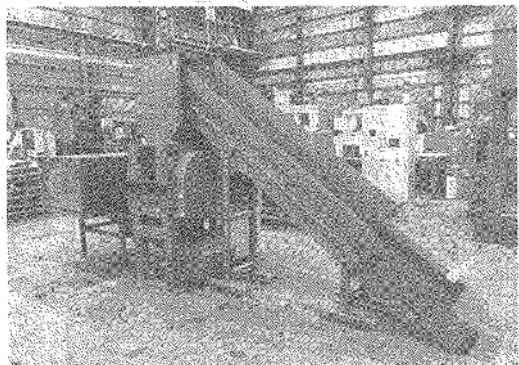
8月7日 水曜日

2024年(令和6年)

EMダイヤが分離・破碎機

既存機改良 欧規制強化に対応

【富山】EMダイヤ(富山県滑川市、森弘吉社長)は、廃車の解体・粉碎後に残る自動車シュレッダーダスト(ASR)から樹脂やウレタンなど再利用可能な素材を取り出す分離・破碎機を完成し、9月に受注を始める。欧州で車の製造に再生材使用を義務付ける規制強化の流れを受け、完成車メーカーは再生材の採用率を高める動きを加速している。EMダイヤは主力製品の分離・破碎機がASRの再資源化に最適とみて対応機を開発。リサイクル会社などから年5台の受注を目標とする。



新型機のベースになった小型分離・破碎機「MTR-250S」

ASR向けの分離・破碎機は、樹脂の処理能力が1時間当たり20キロー200キログラムの小型機「MTR-250S」を改良して開発した。消費税抜きの価格は1300万円を想定する。最終残さであるASRには細かいワイヤなどの鉄が1-2%残り、再利用処理の障壁となっていた。ASRをはじめとする金属を含んだ処理物を3キロー5キログラムに粉碎できる設備は市場になかったため、既存機を改良することにした。機内を改良して耐久性を高めたほか、粉砕物が機外に漏れにくいシール構造を持たせるなどしてAS

R向けの開発にこぎ着けた。

同機はロール状の刃と本体の投入槽の内側に設置した固定式の面状の刃で処理する。投入槽にASRを投入するとロール状の刃が回転しながら切断し、面状の刃に何度もすりつけてそぎ取る仕組み。

欧州連合(EU)の欧州委員会が検討する規制案では新車の製造に使用されるプラスチックの25%にリサイクル材を使用することが義務付けられ、そのうち25%は廃車部品からリサイクルされなければならないという。このため国内自動車メーカーは、再生材使用に向けた技術開発を促進。トヨタ自動車は2030年に、再生材採用率を車両重量ベースで30%以上にする目標掲げる。